

すららアクティブラーニング

平等と優しさと私たち

平等な社会を実現するために私たちにできることは？

～Team Stella～

英進館原校

- ・大垣内 映茉（リーダー・文章作成）
- ・永島 佳凜（アンケート作成・文章打ち込み）
- ・和藤 奏穂（アンケート作成・資料作成）

平等な社会、、、遠い問題のように感じるかもしれませんが、

とても身近な世界問題です。

私たち Team Stella の考えと、A さん、B さんの会話を

見て行ってください。

Step 1 男女の差

皆さんは平等な社会と聞いて、何を思い浮かべましたか？

AさんとBさんは、男女平等にスポットライトを当てて話しています。

二人の会話を見てみましょう！

B：先輩何をしているんですか？

A：平等な社会にしていくために私たちに出来ることは何か
考えているんだ。

B：また難しいことを、、、。

A：難しいが身近な問題だぞ。

B：身近、、、？

A：ああ。例えば、女子に生まれてよかった、なんて思った
経験はないか？

B：んー、あ、あります。女性専用車両に乗ることができること
と、レディースデイで割引をしてもらえることですかね。

A：では逆に、男子に生まれたかった、とか思った経験はない
か？

B：話し合いであまり女子が発言できなかったときですかね。

A：そういうのが“男女の差”で不平等なことだな。

身近な問題な気がしないか？

B：確かに、、、。

A：そこで、私は学校で各クラスアンケートをとって意識的に改善していきたいと思っている。

B：学校だけで！？改善できるんですか！？

A：理由もちゃんと話そう。

Aさんが言ったように私たちは学校で、各クラスアンケートをとり意識的に改善していくことが大切だと思っています。

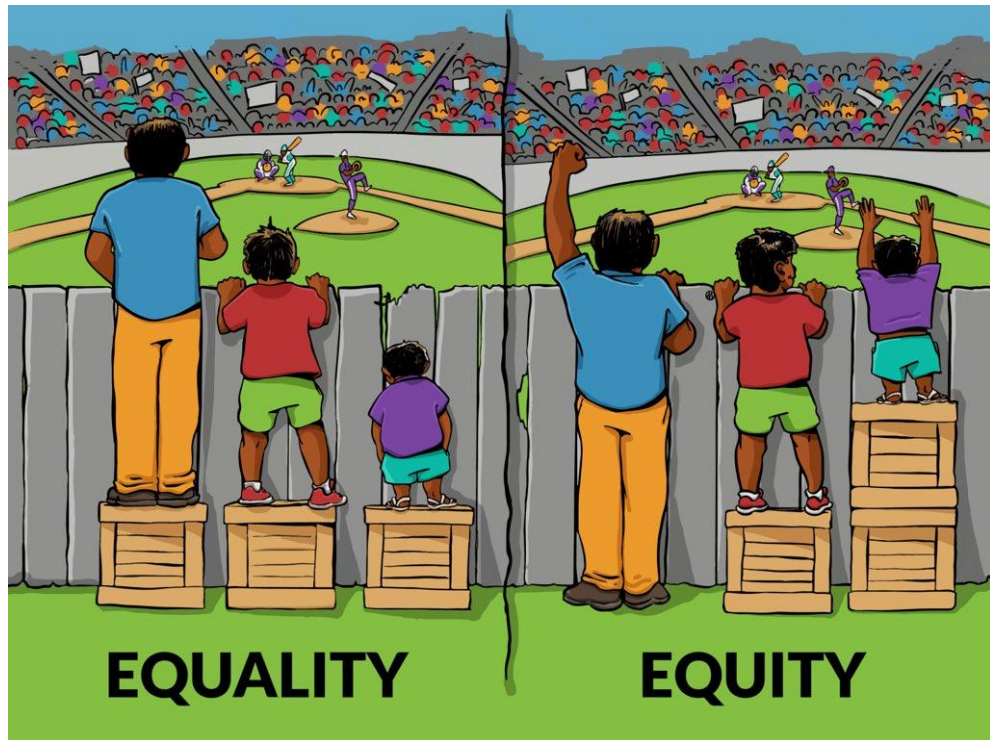
Step 2 平等と公平

皆さんは、平等と公平の違いを知っていますか？同じじゃないの？と思う方もいるかもしれません。まず“平等”と“公平”について会話をしているAさんとBさんを見てみましょう！

A：Bさんは平等と公平の違いを知っているか？

B：同じじゃないんですか？

A：ああ。では、この絵を見てくれ。



A：これは、平等と公平について説明するときによく使われる絵だ。野球の試合を見たい三人の兄弟がいるとしよう。しかし、目の前には柵があった。長男は身長が高く見えるのだが、次男・三男は身長が足らず、見るができない。そこで三つ、木箱を取ってきて三人で一箱ずつ同じように分けて乗ったとしよう。これが平等だ。もともと見えていた長男と、次男も見えるようになった。しかしまだ三男は見えていないんだ。だから、三人で分けるのではなく、次男は一箱、三男は二箱で分けてみた。これが公平だ。すると、全員が見えるように

なった。というわけだ。

B：元々の身長関係なく全員同じようにあつかったのが平等、
元々の身長をふまえて違うようにあつかったのが公平という
ことなんですね。それならすべて公平にしまえばよくな
いですか？

A：そうか？**B**さんはさっき女性専用車両があつて嬉しいと言っ
たな？これは女性を気遣っている。つまり公平だ。しかし、
これを見て男性はこう思うだろう。「不平等だ。男性専用車
両も作ってくれ。」と。

B：確かに、、、。

Aさんと**B**さんの会話の通り、差を関係なしに同じようにあつ
かうことを平等、差を配慮してあつかうことを公平といいます。
似ているように思えますが全然違うのです。

Step 3 男女の差

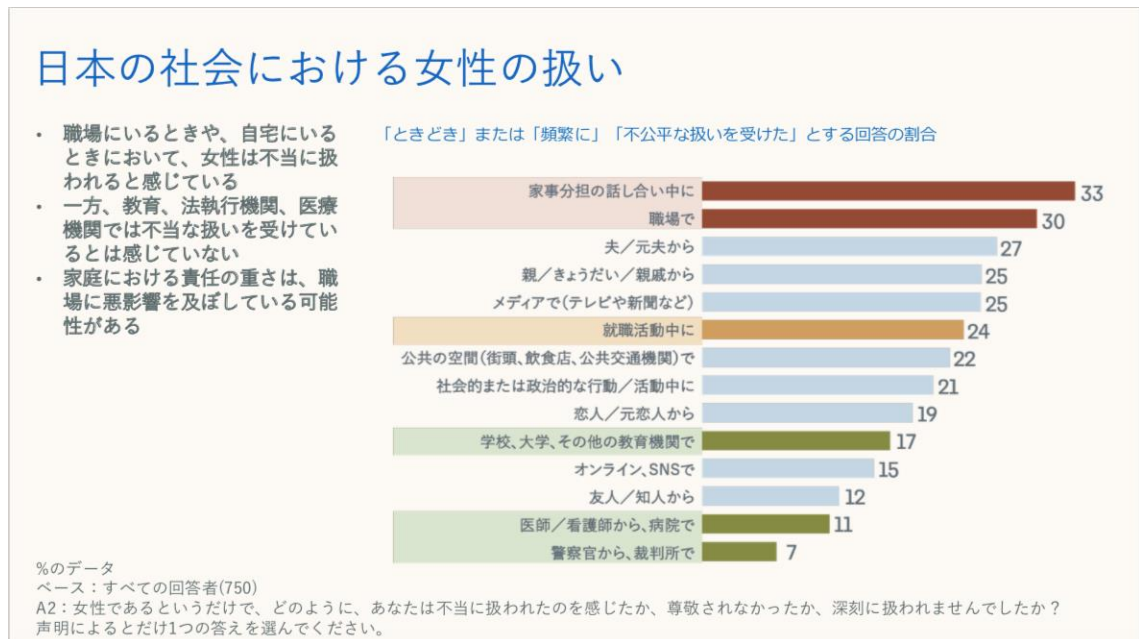
私たち Team Stella は男女の差ということで、学校で感じる不平等なことは何か、意見を出し合いました。その結果、

- ・力仕事をたのまれるのは男子、板書や記録をするのは女子
- ・体力テストの基準が違う
- ・部活動の男女比が異なる
- ・先生の対応が違う

があがりました。そして、実際に、中学生185人に学校での男女の差について共感されるのかアンケートを取りました。

すると、「力仕事をたのまれるのは男子、板書や記録をするのは女子」について54%、「体力テストの基準が違う」について52%、「部活動の男女比が異なる」について34%、「先生の対応が違う」について48%の人が共感してくれました。また、「女子が優先」「給食の量」「〇〇さん、〇〇くん呼び」「女子のほうが勉強できる」「男女で分かれる」についても不平等を感じているようです。しかし、これらの不平等が改善されるとどう思いますかという質問には、「嬉しい」「助かる」という意見の他、「困る」「大変になる」という意見も多くありました。そのため、す

すべてのことを平等にするわけではなく、臨機応変に対応していく必要があるようです。また、社会の中でも様々な問題があると思います。実際に社会の女性は働きにくさを感じているようです。



Step 4 原因

男女の差が生まれる原因は何なのでしょう？

まず、女性なら家庭を、、、なんていう偏見やイメージ、男子ならいじってもいい、、、なんていう雰囲気があると思います。アンケートで男女の差は何が原因か調査すると、「体格差」「勘違い」「見た目」「考え方」「男女という言葉自体」「発言」「習慣」「校則」「男尊女卑」という結果が出ました。

Step 5 私たちの提案

男女平等は SDGs でとりあげられるなど、世界問題にもなっています。ですが、偏見などが原因と考えると、小さいことから意識的に改善していく必要があるでしょう。

また、私たちが社会に出たとき、男女の差によって働きにくさや生きにくさを感じないように、学校で改善することも効果的だと思います。そして、平等にしないほうがいいということもあることも重要な点です。

これらをふまえ、Team Stella からは、

“学校で各クラスアンケートをとり、意識的に改善していく”

ことを提案します。その名も“Winkle like a Stella”。

「星のように一人一人が輝ける場所になるように」という思いを込めて決めました。

概要は、不平等に正しい知識で目を向けられる中学生を対象に、アンケートをとります。アンケートの内容としては、

- ・今、学校の中で不平等に感じ、改善してほしいことはあるか
- ・それはどんなことか

のふたつです。各クラスこのアンケートを基にどうすればいいか

を授業の一環として話し合い、改善していきます。例えば、女子は教室、男子は廊下で着替えていることを不平等と感じているのであれば、男子は空きの教室を使わせてもらったり、教室を交互に使ったりして改善していけばいいと思います。

そして、それを意識的に取り組むことで、“これは不平等なのではないか” “どう改善すればいいのだろうか” と日頃から考えることに繋がり、私たちが社会に出たとき、不平等と戦っていくことができるのではないのでしょうか。

Step 6 優しさ

平等な社会であっても、だれもが幸せになることはないと考えています。なぜなら、平等は不公平だからです。

次に、優しさについて話しているAさんとBさんを見てみましょう。

A：優しさは私たちが快適に過ごしやすくするためにとても大切だ。

B：優しさ、ですか？

A：ああ。Bさんは、満席のバスに座っているとしよう。そこに足

を怪我した人が乗ってきたらどうする？

B：席を譲ります。

A：なんでだ？

B：私よりも怪我をしている人のほうが椅子に座ったほうがいいと思うからです。足を怪我しているのにほっとけません。

Bさんは自分が座ることよりも、怪我をしている人が座るほうが、需要が高いと感じ席を譲ってあげました。平等に与えられたものでも必要としている人にわたす。

Step2 の絵では平等であると三男は野球の試合を見られません。しかし、長男が三男に木箱を一つ渡すと、三人とも野球を見られるようになります。必要としている人に渡してあげる、そういった優しさがあると、より過ごしやすくなっていくのではないのでしょうか。

Step 7 感想～すららアクティブラーニングを通して～

(大垣内 映茉)

中学校で学んだ平等と優しさで、不平等な働きにくさ、過ごしにくさがなくなっていけばいいなと思いました。また、社会的女性の地位向上にもつながってほしいと思います。

(永島 佳凜)

今回の、アクティブラーニングで何でも平等にすればいいということではないというのが分かりました。偏った考え方をしないようにこれからの学校生活を過ごしていきたいと思います。たくさんさんの発見があってとても楽しかったです。

(和藤 奏穂)

生活において不平等だと思うことがあっても、すべて平等にすればいいというわけではなかったことには驚きました。平等な社会の実現のために何ができるかこれからも考えていきたいです。

出典

pic.twitter.com/jePStvtPj9

businessinsider.jp